

# 令和3年度 四街道市立八木原小学校 研修計画

令和3年 8月 18日(水)

四街道市立八木原小学校 山崎 勇輝

## 1 研究主題

自ら学び、思いや考えを伝え合うための学習指導法の工夫・改善  
—ICT 機器の効果的な活用を通して—

## 2 主題設定の理由

### (1) 社会的な背景から

現在、新型コロナウイルス感染症については、なお警戒が必要な状況である。コロナ禍においても、感染及びその拡大のリスクを低減した上で、学びを保証することが求められている。また、「多様な子どもたちをだれ一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現する」ことを目指す GIGA スクール構想が早急に進められている。

予測できない未来を生きる子どもたちにとって、ICT 機器を活用するスキルを身に付けること、感染症対策を講じた環境の中であっても、充実した学習活動が持続的に保証されることは不可欠である。そして、目的でなく手段として効果的・効率的に ICT 機器を活用していくために、ICT を用いた指導に関する教員の資質向上も求められている。

### (2) 学習指導要領から

令和2年度より完全実施された学習指導要領では、確かな学力を育成するために、全ての教科等の目標内容が「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」の三つの柱に再整理された。そして、「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた授業改善の推進、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進が基本方針とされている。

また、指導計画作成等に当たって配慮すべき事項には「各教科の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できるようにするための学習活動を充実するとともに、これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。」と記されている。

本研究では、下線で示した箇所に焦点化し、研修を進めていく。

### (3) 本校の教育目標から

本校では、以下のように学校教育目標を設定している。

<学校教育目標>

「夢をもち、ねばり強く活動する児童の育成」

<めざす児童像>

- 意欲をもって主体的に学ぶ子ども
- 思いやりの心をもって自他を尊ぶ子ども
- 心身共にたくましく夢に向かってねばり強く努力する子ども

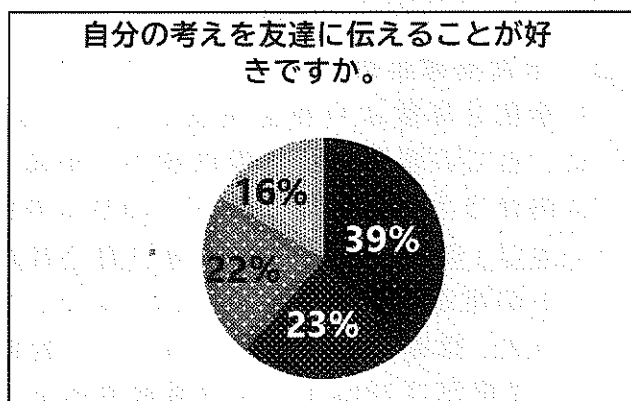
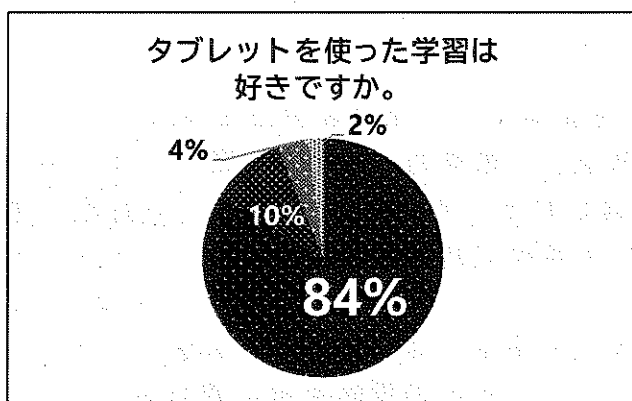
本校では、これまで2年間、研究主題を「伝え合う力を高める国語科の学習」と設定し、国語科の「話す・聞く」領域を中心に授業研究を進めてきた。その成果として、コミュニケーションツールを活用しながら自分の思いや考えを明確にして相手に伝えたり、相手の思いを受け止めて自分と比較したりすることができるようになってきた。一方で、話し合うことで意見を一つにまとめたり、話し合いを通して意見を添えて反論や賛成を伝え、相手の意見を参考にしながら自分の考えを修正したりするコミュニケーション能力は、まだ身に付いているとは言えない実態がある。

本研究では、ICT機器を活用した学習活動の充実、指導方法を工夫することによって、感染症対策を講じた上でコミュニケーション能力を高め、目指す児童像の具現化を図りたい。

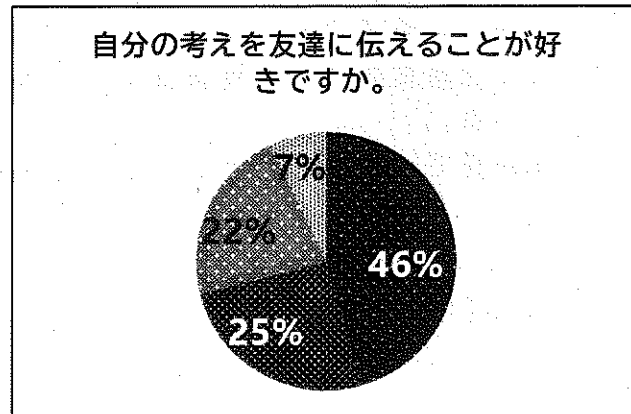
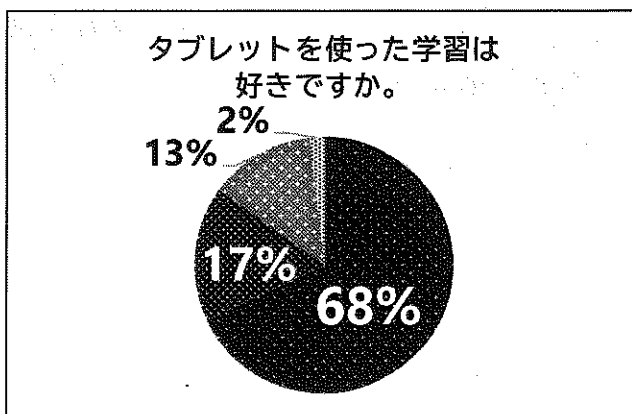
(3) 児童の実態から

本市では、GIGAスクール構想として、1月に1人1台タブレット端末（Windows10）が配布された。昨年度から、調べ学習でインターネットを使用したり、プログラミング学習で活用したりしてきた。4月に、情意面について実態調査を行った。

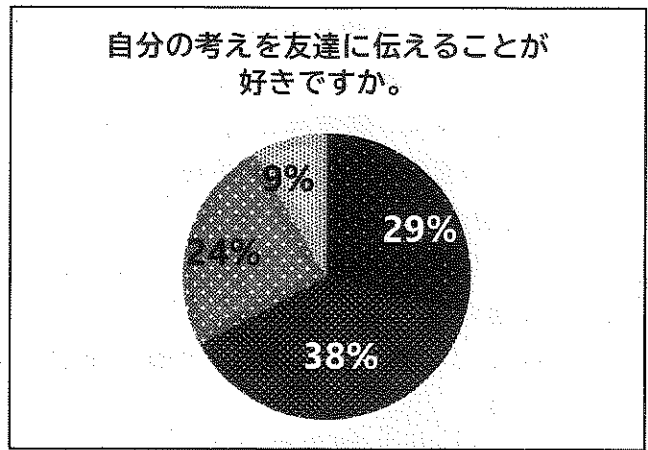
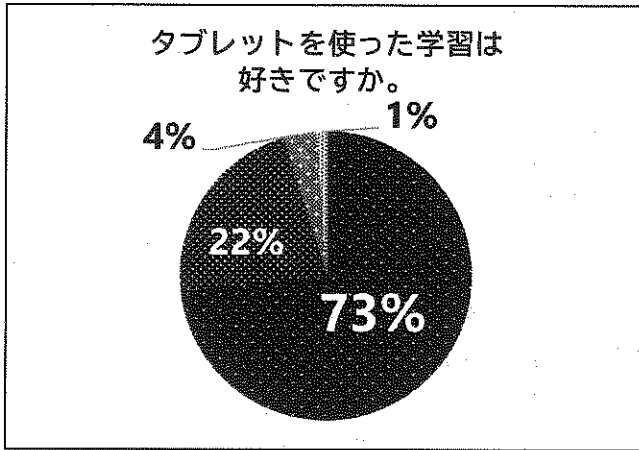
2年



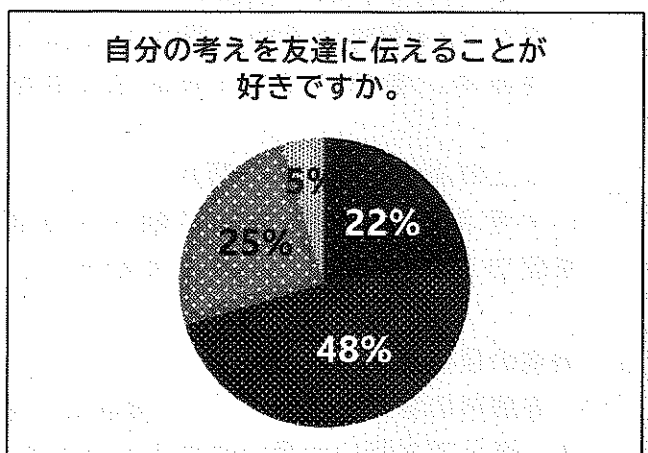
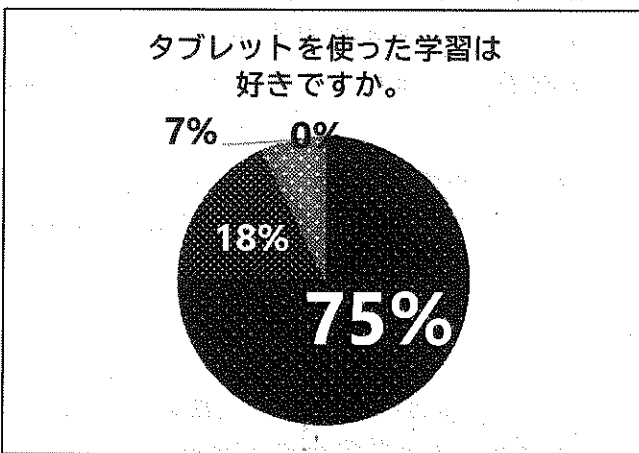
3年



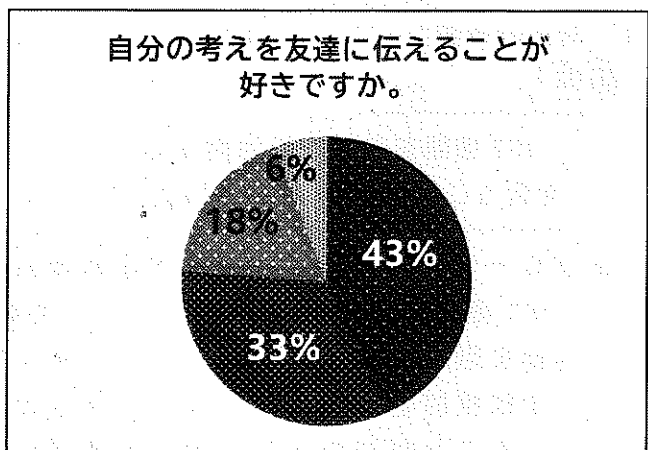
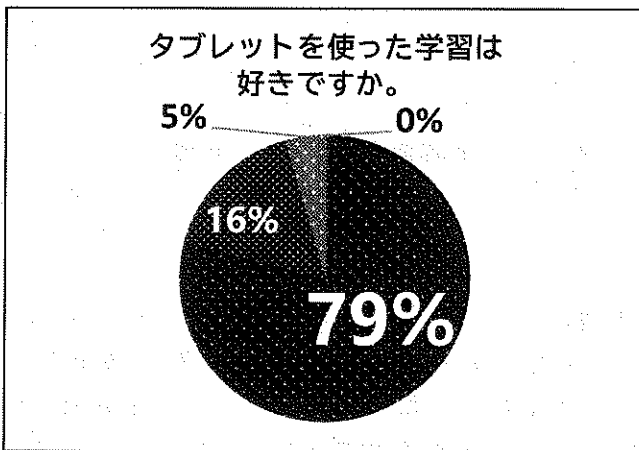
4年


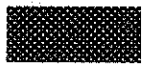

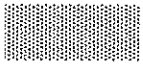


5年



6年



-  …好き
-  …どちらかといえば好き
-  …あまり好きでない
-  …好きでない

- ・タブレット端末を使った学習について、どの学年も9割以上が「好き」「どちらかといえば好き」と肯定的な回答をしている。
- ・タブレット端末の活用に自信があるかについての問いに対しては、低学年では肯定的な回答が多く、高学年になるにつれ低くなっていく傾向がある。ローマ字入力に苦手意識をもつ児童が多いことが理由として考えられる。
- ・「自分の考えを友達に伝えることが好きか」という問いでは、肯定的な回答をしている児童は7割程度であり、高いとは言えない。しかし、「自分の考えを友達に伝えることができるか」という問いでは肯定的な回答をしている児童が多く、これまでの研究の積み重ねにより自信は高まってきていることがうかがえる。
- ・「タブレット端末をつかって自分の考えを友達に伝えることができるか」「タブレット端末を使って自分の考えたことや調べたことをまとめることができるか」という問いでは、肯定的な回答が少なかった。昨年度から多く使用している学年、学級の児童は肯定的な回答が比較的多く、教職員の研修の必要性が高い。

以上のような児童の実態から、タブレット端末を使用することによって自分の思いや考えを伝え合う学習活動への意欲、コミュニケーション能力の向上の効果が検証できるのではないかと考えた。

### 3 研究の目標

各教科の学習において、ICT機器を活用しながら、主体的・協働的に学習に取り組み、進んでお互いの思いや考えを伝え合うことができる子どもの育成を図る。

### 4 研究の仮説

#### 仮説1

ICT機器を効果的に活用することにより、自ら学ぶ意欲を高め、思いや考えを伝え合うことができるだろう。

#### ①グループで共同作業→全体で比較検討

ICT機器を活用することにより、距離を保ちながらグループで課題に取り組む活動を取り入れることができると考えた。また、拡大TVを使い、全体で発表及び比較検討を行うことにより、自分の意見を伝えることができたという達成感に繋げることができたり、相手の意見との共通点や相違点を見出したりすることができると思った。

#### ②個人で表現→一斉

ICT機器を使って個人で学習課題に対する自分の考えを表現し、クラス全体で共有を行う。ホワイトボードであれば個数や掲示する場の制限があるが、ICTを活用することにより全員が思いや考えを表現すること可能になり、個人の端末で全員の確認をすることができる。自分で思考したり表現をしたりする場や時間を確保することにより、意欲を高めることに繋げられるのではないかと考えた。

## 仮説 2

児童の実態に応じた学習支援ソフトを活用することにより、各教科の内容理解を深め、学力を向上することができるだろう。

### ①常時活動でローマ字入力の練習を取り入れる

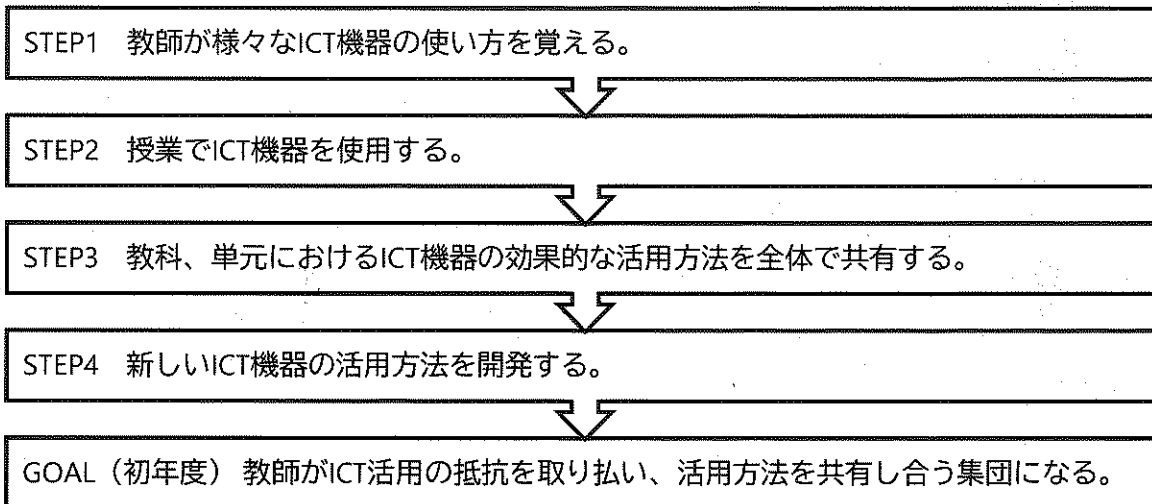
実態調査より、タイピングのスキルに自信のない児童が多いことが明らかになっている。自分の考えや思いを発達段階に応じて表現するためには、ローマ字を覚え、タイピングできる能力が不可欠であると考え。定期的に練習する時間を設けることにより、習熟を図る。

### ②個に応じた学習支援ソフトの活用

正課授業やドリルタイムで必要に応じ、学習内容の反復練習をする時間を設け、基礎・基本的な知識の習熟を図る。学力を向上することにより、仮説1で目指す「思いや考えを伝え合う」ことができる力がさらに伸ばせると考える。

## 5 研究の方法

(職員研修)



## 6 実践の概要

実践経過と予定

- 5月20日(木) ICT理論研修 (講師:北総教育事務所)
- 7月1日(月) ICT実技研修 オクリンク (講師:四街道市教育委員会)
- 7月8日(木) 校内授業研究会①
- 7月21日(水) ICT実技研修 オクリンク実践 (講師:研究主任)
- 9月9日(木) ICT実技研修 ムーブノート (講師:四街道市教育委員会)
- 10月28日(木) 校内授業研究会②
- 12月2日(木) 校内授業研究会③
- 1月27日(木) 専科・特別支援授業研究会

## 第1学年の実践

### 1 単元名 がっこうにくるみち かえるみち

小単元名： つうがくろには あんしんあんぜんがいっぱい


### 2 本時の指導（3／6）


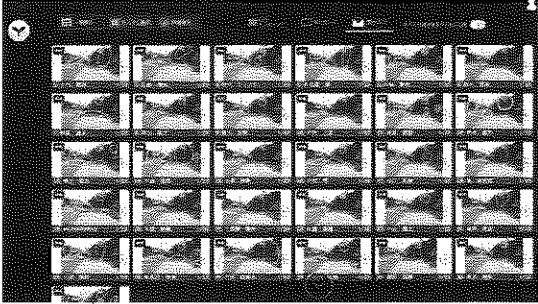
- ・通学路にある施設や、様々な人々の存在に気付くことができる。 （知識及び技能の基礎）
- ・通学路の様子やその安全を守っている人々の存在を感じながら、安全に登下校をしようとしている。 （学びに向かう力、人間性等）

### 3 仮説との関わり

- ・タブレット端末を活用し、児童へ画像を配信する。児童はその画像に印を付けていく。拡大表示できることにより、より細かいところにも目を向けられると考える。また、データ送信機能を利用することで、児童が全体共有をしやすくなると考える。 （仮説1）
- ・画像共有（送信）機能を使うことで、全員が同じものについて同時に考えることができ、自分以外の視点に気付くことができる。 （仮説2）

### 4 実践例

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>〈見出す〉</p> <p>1 自分の通学路には安全に関わるものがあるか振り返った。</p>	<p>・発表者に共感しながら聞けるようにした。</p>	大型テレビ
	<p>つうがくろのあんぜんのひみつをみつけよう。</p>		
20	<p>〈自分で取り組む〉</p> <p>2 パソコンの画像から、通学路にある安全を探した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミライシードのペン機能を使い、児童それぞれの通学路の中で安全に関するものを見つけ、○印を付けた。</li> <li>・ミライシードの送信機能を使い、担任へ送った。</li> </ul>	<p>・導入で挙げた意見をもとに探すよう促した。</p> <p>○通学路にある施設や、様々な人々の存在に気付くことができる。 （知・技）【発言・記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大表示することで、より細かいところまで目を向けさせるようにした。</li> </ul>	<p>タブレット端末</p> <p>通学路の画像</p> <p>掲示用写真</p> <p>大型テレビ</p>
15	<p>〈広げ深める〉</p> <p>3 ○印を付けた部分を発表した。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が付けた○印を全員で見られるよう、テレビに接続して拡大表示した。</li> <li>・黒板に貼ってある写真にも○印を付けていった。</li> </ul>	

<p>5</p> <p>〈まとめあげる〉</p> <p>4 本時のまとめをした。</p>   <p>5 次回の学習内容を確認した。</p>	<p>○通学路の様子やその安全を守っている人々の存在を感じながら、安全に登下校をしようとしている。 (主)【発言・記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の意見を聞けるよう、友達の意見に対して、同じまたはよいと思った児童には挙手させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲を向上させるために、公園探検に向けた準備をすることを伝えた。</li> </ul>
---	---	---

## 5 成果と課題

### (1) 成果


- ・画像に○印をつけるという活動が、子供たちにとって意欲向上につながった。
- ・オクリンクの提出機能を活用することで、全員の考えを同時に共有することができた。
- ・画像を拡大縮小しながら印をつけていくことで、画像の隅々まで見つけようとする児童が多かった。
- ・ふだん挙手をしない児童でも、友達と同じ考えを見つけて同意見として挙手する機会が増えた。

### (2) 課題


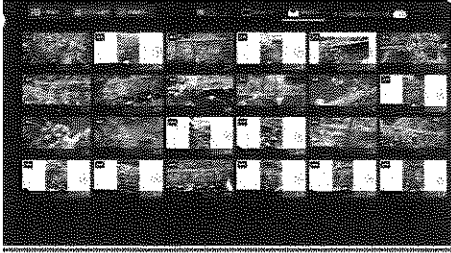
- ・活動終了後に画面ロック機能を使用しても、手元をいじろうとしてしまう児童がいたため、パソコン使用時のルールを徹底する必要がある。
- ・印をつけて活動終了ではなく、なぜそこに印をつけたのか理由を聞くところまでを共有した方がよかった。
- ・教師がパソコンの操作に精一杯になってしまったので、機器の扱いの慣れが大切である。
- ・学力を向上させるという意味では、文字化して記録する活動が必要だった。

## 第2学年の実践

- 1 単元名 春はっけん  
小単元名：花ややさいの大きくなるひみつはっけん
- 2 本時の指導（6／8）
  - ・野菜の観察をし、変化や成長に気付くことができる。 （知識・技能の基礎）
- 3 仮説との関わり
  - ・ミライシードの提出機能を活用し、視覚的に情報を共有することで、自分の意見を相手に伝えられるようになることを考える。 （仮説1）
  - ・写真を使うことで、個人の主観ではなく、事実をもとに観察をすることができ、野菜の成長の変化をより気付けると考える。 （仮説2）
- 4 実践例

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>〈見出す〉</p> <p>1 本時の学習内容を知り、めあてを確認した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習内容を振り返り、本時のめあてにつなげた。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           やさいはどのようにせいちょうしてきたのかしらべよう。         </div>		
20	<p>〈自分で取り組む〉</p> <p>2 今まで撮ってきた写真を比較し、ワークシートに気付いたことを書いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットでミライシードを開き、今までの成長の様子が分かる写真をつなげた。</li> <li>・変化に注目させて、ワークシートに成長の様子を書いた。</li> <li>・終わった児童には、ミライシードで観察に使った写真を提出させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなことを書くかイメージでできるよう、教師が例を示した。</li> <li>・ワークシートに書く内容は、見付けたことや気付いたこと、比べてみて違うことなど書くよう助言をした。</li> <li>・変化に気付けるよう、着目するポイントを明確にした。</li> </ul>	ワークシート タブレット 端末
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           見るポイント            ○葉のようす ○みのようす            ○くきの高さ ○花のようす         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が理解できるよう、ミライシードで提出させた写真を大型テレビで映した。</li> </ul>	タブレット 端末 大型テレビ



<p>10</p>	<p>〈広げ深める〉</p> <p>3 気付いたことなどを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初はペアで、その後、全体で共有をする。</li> </ul>  	<p>○野菜の観察をし、変化や成長に気付いている。 (知・技)</p> <p>【ワークシート・発表】</p>	<p>ワークシート</p>
<p>10</p>	<p>〈まとめあげる〉</p> <p>4 本時の振り返りをし、新たな発見をワークシートに書く。</p>	<p>・今日の観察や、友達の発表を聞いて初めて知ったことをまとめた。</p>	

5 成果と課題

(1) 成果

- ・写真をもとの観察をすることで、過去との比較や、拡大機能しやすくなり、全員が気付いたことを書くことができた。
- ・タブレットを有効に活用することで、児童が意欲的に活動するようになった。また、共有機能を使い、観察した写真を見ながら発表することで、意見がより伝わるようになった。

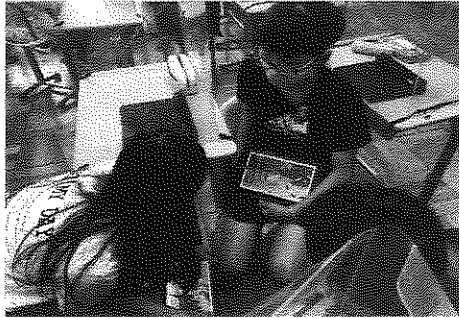
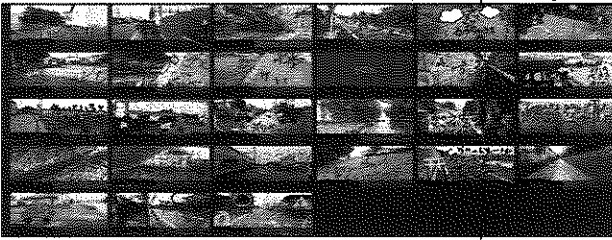
(2) 課題

- ・個人で撮っている写真に差があり、比較できる部分の一つになってしまう児童がいた。写真を撮る際に、どのような視点で撮らせるのかを指導する必要がある。
- ・オクリンク内で気付きを書くことができるため、ワークシートが必要であったのか。今後、タブレット活用時のワークシートの必要性については検討が必要。

## 第4学年の実践

- 1 単元名 みんなの安全守り隊  
(教材名：地域安全マップを作ろう)
- 2 本時の指導 (8/13)
  - ・自分の考えを相手にわかりやすく伝えることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 3 仮説との関わり
  - ・ICT機器を使い、言葉だけでなく、写真に付け加えた工夫やメモを使うことで、発表が苦手な児童も自分の考えを伝え合うことができると考える。 (仮説1)
- 4 実践例

時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価	資料
3	<p>〈見出す〉</p> <p>1 これまでの学習を振り返った。</p>	<p>・計画表をもとに、これまでの学習を振り返り、本時のめあてにつなげた。</p>	計画表
3	<p>2 本時の課題の設定。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">撮ってきた写真をわかりやすく伝えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく伝えるためのポイントを話し合った。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分かりやすく伝えるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が見てもわかるようにする。</li> <li>・後で見てもわかるようにする。</li> <li>・自分の考えを書き込む。</li> <li>・図や記号を入れる。</li> <li>・色を付ける。</li> <li>・拡大する。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに出了、ポイントについて確認をした。</li> <li>・わかりやすく伝えるためにどんなことに気を付けるとよいか確認した。</li> </ul>	
5	<p>3 ペアで写真の工夫を伝え合った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく伝えるための工夫やその理由を伝えた。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>私は、～を伝えなかったので～(わかりやすく伝えるポイント)を工夫しました。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良いと思うところやアドバイスを伝え合った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで伝え合う時のポイントを確認し、どんな工夫をしたのか、なぜその工夫をしたのか伝え合うよう助言した。</li> </ul>	写真 タブレット
15	<p>〈自分で取り組む〉</p> <p>4 アドバイスなどをもとに写真に工</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良いと思った工夫や、もらったアドバイ</li> </ul>	

<p>1 4</p>	<p>夫を加えた。</p> <p>〈広げ深める〉</p> <p>5 グループで自分の撮ってきた場所について発表をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活班で発表の練習をした。</li> <li>・発表を聞いて思ったことやアドバイスを伝え合った。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・私が撮った場所は～です。理由は～(自分の考え)だからです。なので、安全マップに入れたほうがいいと思いました。</p> </div>	<p>スをもとに、さらに工夫を加えるように助言した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を見せるだけでなく、理由や自分の考えをつけて伝えるように声かけをした。</li> </ul> <p>○自分の考えを相手にわかりやすく伝えて いる。 (思・判・表)</p> <p>【発言 行動観察】</p> <div style="text-align: center;">  </div>	
<p>5</p>	<p>〈まとめあげる〉</p> <p>6 発表の中で工夫が良かったと思う児童に発表させ、学習の振り返りと次時の確認を行った。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を振り返り、次時では、地区別のグループごとに発表をすることを伝え、次回の学習に対する意識付けをした。</li> </ul>	

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・やる事が明確で一人一台のタブレットを所持していたので、課題を自分のものとして考えられていた。それぞれが自分の考えを書き込むことができていたので、発表の際に自分の考えを伝えられていた。
- ・タブレットを使うことで、学習に対する意欲が増し、意欲的に取り組んでいた。また、共有機能や大型TVを使うことで、考えが視覚化されて、より伝わりやすくなった

### (2) 課題

- ・全体で比較検討を行い、わかりやすい表現の方法(画像に絵や文字を書き込む など)を共有したほうが良かった。
- ・手書きで書きこんでいたので、できる児童は文字を打ち込んだり、タッチペンを用意したりしたほうが良かった。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法</li> <li>・教育基本法</li> <li>・学校教育法</li> <li>・学習指導要領</li> <li>・県の指導方針</li> <li>・市の教育目標</li> </ul>
---

学校教育目標
<p>夢を持ちねばり強く活動する児童の育成 ～知と心と体のバランスのとれた児童の育成～ くめず児童像&gt; ○やさしく(豊かな心) ○かしこく(学ぶ喜び) ○たくましく(健康と体力)</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態</li> <li>・地域・保護者の願い</li> <li>・本校職員の願い</li> <li>・学習指導要領</li> </ul>
---

特別活動との関連
<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級活動、委員会活動、学校行事、クラブ活動の様々な活動における情報収集・整理等を行い、プレゼンテーションなどの表現活動に情報機器を利用し、より豊かな学習活動を行う。</li> <li>○学級活動・クラブ・学校行事の際に、活動したこと、調べたことなどをまとめたり、発表したりする活動を通して、情報機器を使う力を育てる。</li> <li>○コンピュータやICT機器の活用による情報の収集・整理、プレゼンテーション用資料の作成など、表現力の育成とともに、情報を有効的に発信・伝達する能力を育てる。</li> <li>・デジタルビデオ、デジタルカメラを活用した活動の記録やまとめ</li> <li>・委員会活動等でのグラフを活用した資料分析(ポスター・新聞などの作成)</li> <li>・プレゼンテーションソフトを活用した発表</li> </ul>

職員に関わる事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な情報モラル全般に関する研究</li> <li>・全職員のコンピュータ研修</li> <li>・児童がコンピュータに向かう時間の確保</li> </ul>

プログラミング教育の充実
<p>「コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができる」資質・能力を育成するために各教科等で体験させる。(論理的思考力・創造的思考力)</p>

生徒指導との連携
<p>基本的な生活習慣を体得させるとともに、目標に向かって粘り強く実践する態度と、相手の立場を尊重する心情を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の徹底</li> <li>・共感的理解による好ましい人間関係の育成</li> </ul>

教育環境の整備
<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた生活環境を通して、潤いのある生活態度を育てる。</li> <li>・正しい言語環境を通して、他者を尊重する態度を育てる。</li> <li>・人的環境を通して、互いに助け合い、協力し合う態度を育てる。</li> </ul>

情報・視聴覚教育の重点目標
<p>コンピュータや情報通信機器・ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、意欲的に課題を発見・解決したり、思いを発信したりできる子どもの育成</p>

各学年の重点目標
<p>&lt;低学年&gt; ・パソコンの起動・終了などの必要な基本操作の習得や描画・文字の入力(かな入力)などを通して、マウスやキーボードの使い方に慣れさせる。 ・情報モラル(NETモラル)についての基礎的理解を図る。</p> <p>&lt;中学年&gt; ・描画・文字の入力(ローマ字入力)・写真の挿入などの操作を通して、コンピュータに慣れ親しませる。 ・情報モラル(NETモラル)について知り、インターネットを正しく活用し検索する能力を育てる。</p> <p>&lt;高学年&gt; ・コンピュータなどを活用して、学習のまとめや発表をする中で、コンピュータに慣れ親しませる。 ・情報モラル(NETモラル)の必要性を理解し、正しくコンピュータを活用する能力を育てる。</p>

情報・視聴覚教育の指導方針
<p>○コンピュータを活用する技能の習得 ・コンピュータなどを教員として積極的に活用し、慣れ親しませることで、児童の興味関心を高める。 ・コンピュータを活用するために必要な基本操作を習得させる。 ・学習の色々な場面で活用させ、技能を高める。</p> <p>○情報収集・活用能力、発信・伝達能力の育成 ・必要な情報を主体的に収集し、選択・整理する、提示するという過程の中で、コンピュータを活用する力や発信・伝達できる能力を育てる。</p> <p>○情報モラル・NETモラルの醸成 ・適切にソーシャルネットワークを活用して情報収集・情報発信する意識とスキルを習得させる。</p>

学年・学級経営の充実
<p>情報・視聴覚教育を通して教師と児童相互の心の通う人間関係を深める。</p>

家庭・地域社会との連携
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校だより」などの発行により、保護者・地域への情報教育の広報活動を行う。</li> <li>・地域人材活用や地域教材の発掘と人的な協力態勢作りを行う。</li> </ul>

各教科等との関連	
国語	表現能力の育成や、言語情報の収集及び活用に関する基礎・基本となる力の育成を図る。
社会	資料を活用して社会的事象を考察し、必要な情報を収集し、整理する力の育成を図る。
算数	算数的活動を通し思考を深めるための手段として、電卓やコンピュータを適切に活用し、算数的処理能力の育成を図る。
理科	観察・実験データの処理、必要な情報の収集、整理などに活用し、表現・考察を効果的に行う能力の育成を図る。
生活	身近な人々、社会及び自然との関わりを様々な情報を適切に使って直接的間接的に交流し、自立への基礎を養う。
音楽	鑑賞や表現の補助的手段として活用することで、より豊かな芸術感覚を養う。
図工	コンピュータやデジタルカメラなどを使った創造的な造形活動を行い、発想や構想などの能力の育成を図る。
家庭	情報収集や整理の工夫をする活動において、情報機器を有効に活用する能力の育成を図る。
体育	いろいろな運動の動きのデータを分析し、たしかめたりする活動をするすることで、より質の高い運動能力を養う。
外国語活動	音楽や映像教材から受ける英語情報を処理し、活用する能力の育成を図る。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの情報の中から必要な情報を収集・整理し、活用することができ、責任ある発信ができる資質や能力を養う。</li> <li>・目的に応じてコンピュータを操作したり、いろいろなソフトや情報機器を活用して、適切に表現できる。(プログラミング教育を通して)</li> </ul>

「児童・生徒が必要とする情報を正しく選択し、活用する能力を身につけるための  
情報・視聴覚機器の利用はどうあるべきか」

情報教育を取り巻く環境はさらに大きく変貌を遂げていくことが予想される。児童生徒のパソコン操作能力が向上していく一方で、ニーズに応じた対応と指導体制が問われている。教職員の情報処理に関する操作能力向上も、研修すべき課題であると思われる。そこで、四街道市で全員に配られたタブレット端末の利用を通してこれを活用しながら、情報・視聴覚機器を正しく利用していけるようにしていきたい。

## 千代田中学校の取り組み

### 1. タブレットの活用

#### ○授業での活用

- ・タブレット台を製作し、大型 TV に接続することで実物投影機として使用した。教師が師範する場合など、集って密になることもなくわかりやすく説明をすることができた。(右図)
- ・教師師範を録画しておき、生徒が自分のタブレットで必要な部分を再生し再確認できるようにした。



#### ○校外学習・修学旅行での活用

- ・ Teams の各クラス、チーム内のファイル機能を使い、班ごとに班新聞を作成した。

#### ○生徒会活動での活用

- ・ 生徒集会や部活動壮行会、生徒会役員選挙を大型 TV に映して、遠隔で行うことにより密を避ける。(始業式、終業式も同じ)



#### ○休業中の家庭持ち帰りに向けて

##### ・日程

6 / 28 タブレット端末配布及び動作確認、キャリア教育アンケート実施  
(1年) ※3学年は4月より技術の授業にて Teams 等使用中

タブレットケース配付

7 / 12 ミライシード及びリモート登校日職員研修 (職員会議終了後)

7 / 19 家庭持ち帰り指導 (各学年集会時) 家庭持ち帰り  
リモート授業の配信 (適宜)

8 / 20 リモート登校日 (各学級) 8:30~奇数学級 9:00~偶数学級

9 / 1 タブレット端末持参

##### ・生徒の活動内容

ミライシード学習

課題のカメラ撮影→リモート登校日にファイルにて報告

### 2. ICT サポーターの活用